

ガロック村の人口と世帯構造：30年間の変動[§]

松 下 敬 一 郎
坪 内 良 博

要 約

本論は、1970-71年に実施されたガロック村の全戸調査データをベースにして、追跡・遡及調査により人口・世帯構成の30年間のパネル・データを作成し、それに基づいて基本的な人口動態統計と世帯の類型間推移を示している。

ガロック村は、1970年代および1980年代においては、女子の高出生力と20歳前後の高転出により逆「T」字型の人口年齢構成をもっていた。州外への転出が増加することにより、人口ピラミッドは20歳代に「括れ」をもつ形状を示すようになった。このように高出生と高転出がガロックの人口に大きな影響を与える中で、その世帯構成は約60%が核家族世帯からなるものの、多様な形の拡大家族世帯がそれぞれの家族の事情に応じて形成されている。拡大家族世帯の家族類型間推移はやや不安定化する傾向を示しているものの、拡大家族世帯に帰属する男子人口は年齢により20%から50%を占め、女子人口は20%から70%を占めている。核家族と双系性を基調としながらも、多様な家族構成をもつ世帯を形成して、都市との所得や教育・雇用機会の格差および高齢者との同居など各世帯のおかれた状況に柔軟に対応している。

キーワード：マレー農村；人口動態；世帯類型間推移
経済学文献季報分類番号：14-22

はじめに

急速な経済発展の進むマレーシアにおいて、農村も社会経済的な発展の影響を受けている。経済発展の影響を受けて農村にどのような変化が生じるかを観察することは重要な研究課題である。これらの変化は背後にある一般的な経済成長と社会変動の関係を反映するものと考えられる。本論の課題は、変化を遂げる農村の人口学的な断面を示すことである。

この研究を進めるにあたっては、農村各世帯における世帯構成員の人口事象と家族構成の変化を示すパネル・データが必要となる。過去の出来事に関する遡及調査データは非標本誤差が大きいため、理想的には各年の調査が必要となる。非標本誤差の少ない遡及調査データ

§ 本論におけるデータの集計および草稿の作成は、関西大学平成14年度国外研究における松下の研究成果である。

を得るためには、観察基準年における調査が不可欠である。観察基準年からの変化と現調査時点からの遡及事象にもとづく変化とが一致することが必要となり、エラー・チェックの役割を果たすこととなる¹⁾。

観察基準年の調査データとして、過去に実施された農村各世帯の悉皆調査データの中から、クランタン州のガロック村を本論では利用している。ガロック村は、クランタン州の東北部、パシル・マスとタナ・メラの中間に位置するマレー人の村である。坪内は1970年から1971年にかけてこの村の全戸について悉皆調査を実施した²⁾。その後、坪内は1984年、1991年、2000年に松下は1992年、2001年に悉皆調査を実施した³⁾。

本論で用いているパネル・データの作成にあたっては、まず坪内が2000年に家族形成に関する項目を含む面接調査を実施した。この家族形成に関する調査データを1971-91年のパネル・データに追記し、松下が2001年の面接調査において、人口事象発生の前後関係、発生年次について確認した。このようにして作成されたデータにより、世帯構成員とその家族構成について1971年から2000年までの各年の変化を観察することが可能となり、ガロック村の人口学的プロフィールと世帯構成の動的な推移が示される。

1. 人口と世帯数の推移

ガロック村の人口の推移は図1に示されている⁴⁾。1970年代と1980年代にほぼ直線的に増加してきた人口は、1990年代に入ると増加が止まり、わずかに減少する傾向を示している。男女比については、若干の増減が見られるものの30年間を通じてほぼ100前後で安定している⁵⁾。

世帯数が増加する傾向は図2に示されている。1976年から1992年まで世帯の増加がほぼ直線的に続いているが、1971年から1976年の期間と1992年以後の期間において世帯数は比較的

1) t_1 年と t_2 年の2時点で調査を実施した場合、2時点ともに在住する世帯については精度が高いと思われる。一方、慎重な面接調査を実施しても、 t_1 年以後に転入して t_2 年以前に転出する世帯は調査から脱漏する可能性が高い。 t_2 年時に不在の世帯は親族・近隣の順でデータを補完した。隣村に在住する場合は訪問して確認した。 t_1 年以後に転入して t_2 年時に在住する世帯については転入の状況などについて確認した。

2) 口羽益生、坪内良博、前田成文著『マレー農村の研究』創文社1976年。

3) 1991・92年の調査結果については Matsushita, K., 'Twenty Years of Changes in Population and Household Composition: Demographic Profile of Galok, Malaysia,' *Studies on the Dynamics of the Frontier World in Insular Southeast Asia*, T. Kato (ed.), Center for Southeast Asian Studies, 1997, 86-96参照。

4) 年末時点で在住している人口を示している。原データは表1に示されている。

5) 1980年代後半から1990年代前半にかけて男女比がやや低下する。しかし、その値は最低でも1988年の91.6で、30年間の平均は99.5、標準偏差は4.27となっている。

図1 人口の推移

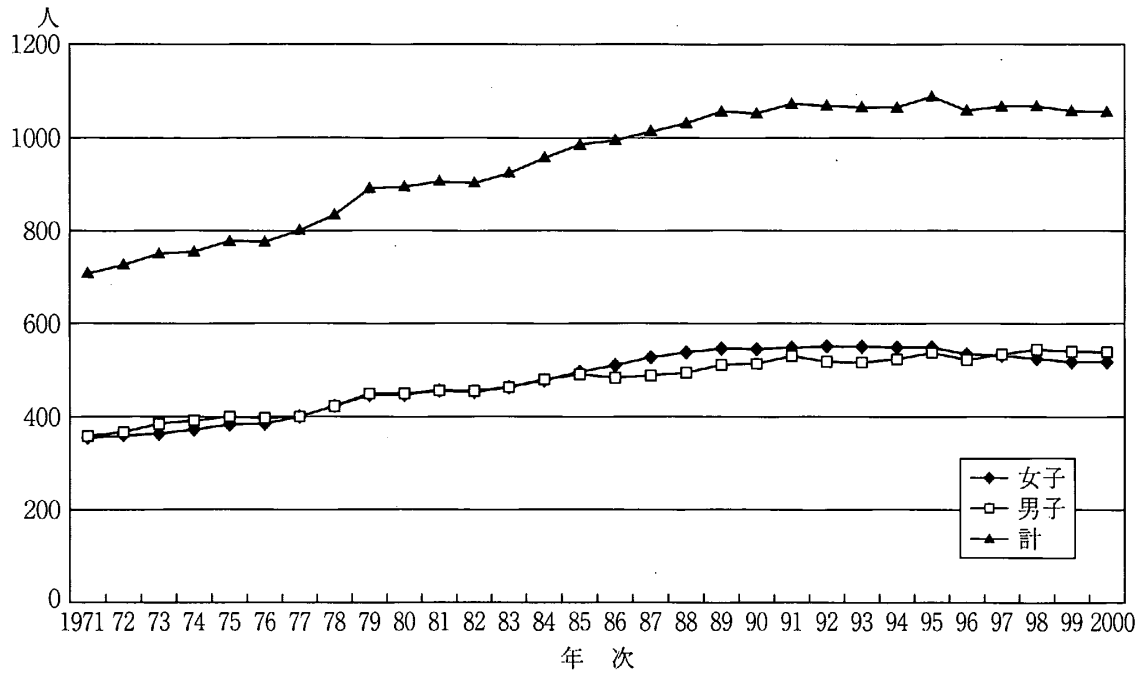
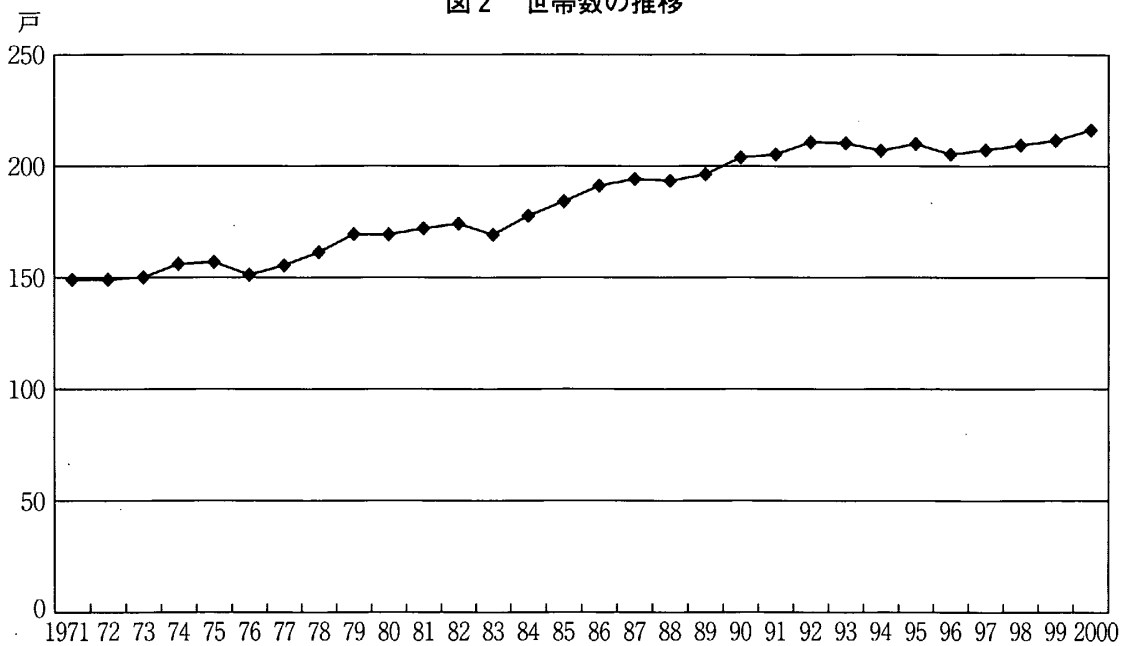


図2 世帯数の推移



安定している。シンガポールやジョホールなどへの出稼ぎにより賃金所得を得ていた時期に、独立した世帯を村内に形成することが可能であったものと思われる。

人口の増加と世帯数の増加にややタイム・ラグがみられることから予想されるが、平均世帯員数は放物線のような形状をしている⁶⁾ (図3)。1971年の約4.8人から1983年には約5.5

6) 単純な2次曲線の回帰式の推計結果は、 $y = 4.7704 - .0021t^2 + .0686t$ ($r^2 = .7567$) である。

表1 人口および世帯数 (1971-200年)

年次	人口(人)			世帯数 (戸)	平均世帯 員数 (人)	世帯員数別世帯数(戸)							
	女子	男子	計			1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上
1971	35335	360	712	149	4.78	9	15	27	22	21	22	13	20
72	358	369	727	149	4.89	10	14	21	24	22	26	13	19
73	363	387	750	150	5.01	10	12	21	24	21	26	14	22
74	370	391	761	156	4.88	10	13	22	26	21	31	13	20
75	383	401	784	157	4.99	9	17	19	22	21	27	21	21
76	384	395	779	151	5.16	7	14	15	26	22	22	24	21
77	401	403	804	155	5.19	7	14	14	25	25	20	31	19
78	420	421	841	161	5.22	8	12	15	28	24	23	28	23
79	445	450	895	169	5.30	10	13	15	26	24	28	24	29
80	447	451	898	169	5.31	8	14	16	24	29	24	23	31
81	455	455	910	172	5.29	8	16	18	25	27	23	25	30
82	452	455	907	174	5.21	10	16	18	24	33	21	25	27
83	462	462	924	169	5.47	11	13	14	21	31	24	22	33
84	477	479	956	177	5.40	10	18	11	28	31	26	15	38
85	496	490	986	184	5.36	8	20	15	24	31	30	24	32
86	512	482	994	191	5.21	13	18	18	24	29	27	34	28
87	529	485	1014	194	5.23	14	17	22	25	27	20	38	31
88	538	493	1031	193	5.34	11	19	14	29	29	25	34	32
89	546	509	1055	196	5.38	13	18	16	30	24	25	32	38
90	543	511	1054	204	5.16	17	18	23	32	20	26	30	38
91	548	530	1078	205	5.26	14	19	24	25	32	25	27	39
92	552	517	1069	211	5.07	19	26	25	14	39	25	22	41
93	551	516	1067	210	5.08	19	27	21	19	34	27	23	40
94	548	522	1070	207	5.17	19	25	21	19	36	21	19	47
95	550	538	1088	210	5.18	19	25	20	22	35	23	18	48
96	533	521	1054	205	5.15	19	26	22	23	25	23	20	47
97	531	534	1065	207	5.15	19	26	14	27	31	28	20	42
98	522	545	1067	209	5.11	24	24	18	21	29	30	23	40
99	515	540	1055	211	5.00	26	27	16	27	21	32	23	39
2000	517	538	1055	216	4.88	29	29	17	27	21	28	24	41

人まで増加し、その後減少して2000年には約4.9人となっている。図4に示された世帯員数別世帯の分布の推移をみると、前半の増加は6人以上の世帯割合の増加に起因しており、この期間に2人以下の世帯割合の減少はみられない。後半における世帯規模の縮小は2人以下の世帯割合の増加が原因で生じており、6人以上の世帯割合は1989年から1992年にかけて減少するが、その後は比較的安定している。全期間を通じてみると3-5人の世帯の割合が減少しており、6人以上の多人数世帯と2人以下の少人数世帯が前後して増加することにより平均世帯員数が増加から減少に転じている。

ガロック村の人口総数および世帯数の推移にみられる特徴として、1) 1970年代および1980年代に人口が増加していること、2) 1980年代に世帯数が増加していること、3) 1970年代に多人数世帯が増加していること、4) 1980年代末から単身・2人世帯が増加していることがあげられる。

図3 平均世帯員数の推移

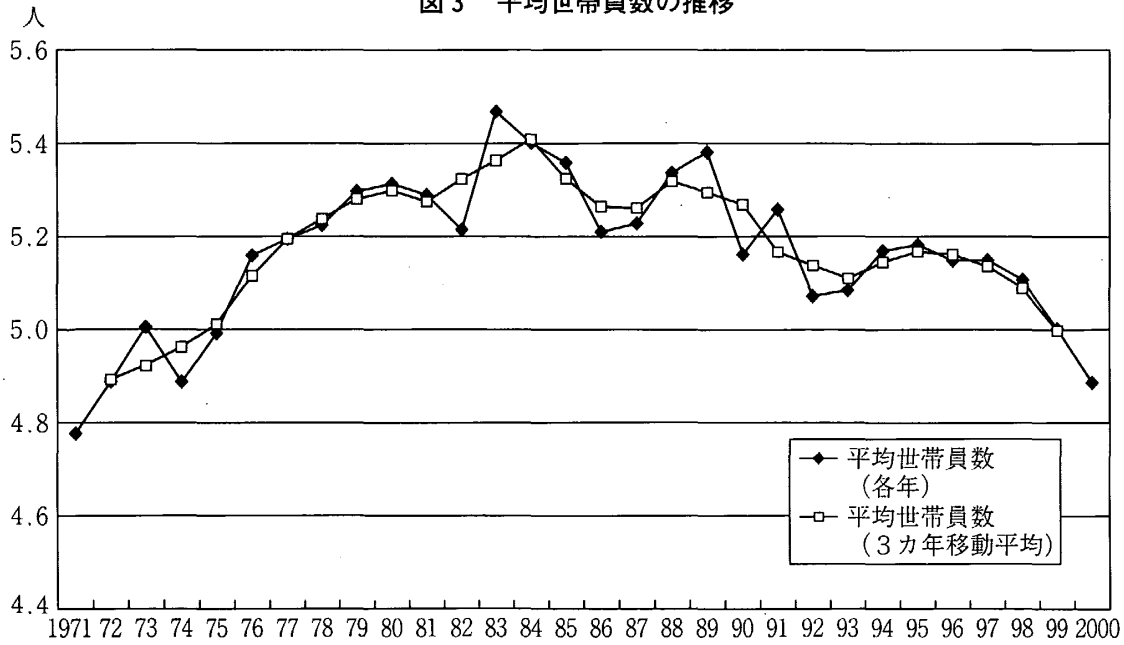
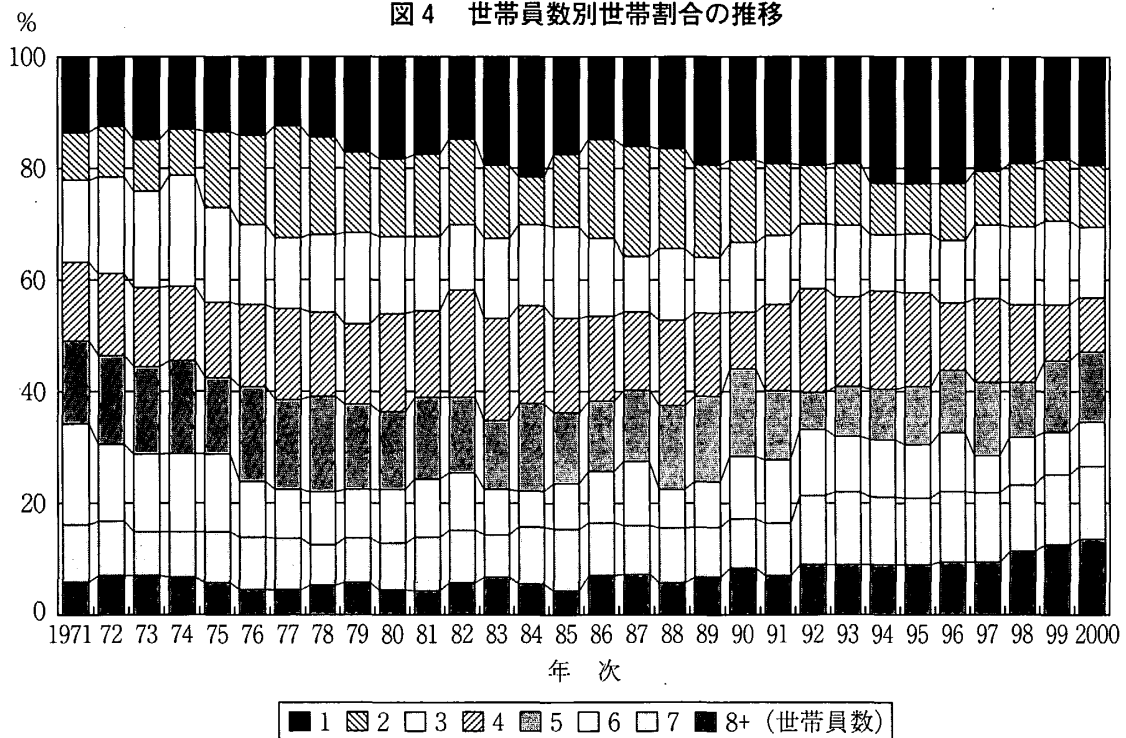


図4 世帯員数別世帯割合の推移



男女年齢5歳区分別人口を示す人口ピラミッドを年次ごとに比較することにより、年齢構成の推移を概観することができる。図5-1、図5-2、図5-3、図5-4にそれぞれ1971年、1981年、1991年、2000年の人口ピラミッドを示す。

1) 各年次とも高い出生力によりピラミッドの裾野は広い。2) 20歳前後の高い純転出により広い裾野は絞られ、1971年と1981年のピラミッドは逆「T」字の形状を示している。3) さらに純転出が増加することにより、1991年および2000年のピラミッドでは「括れ」が生じ

図5-1 人口ピラミッド1971年

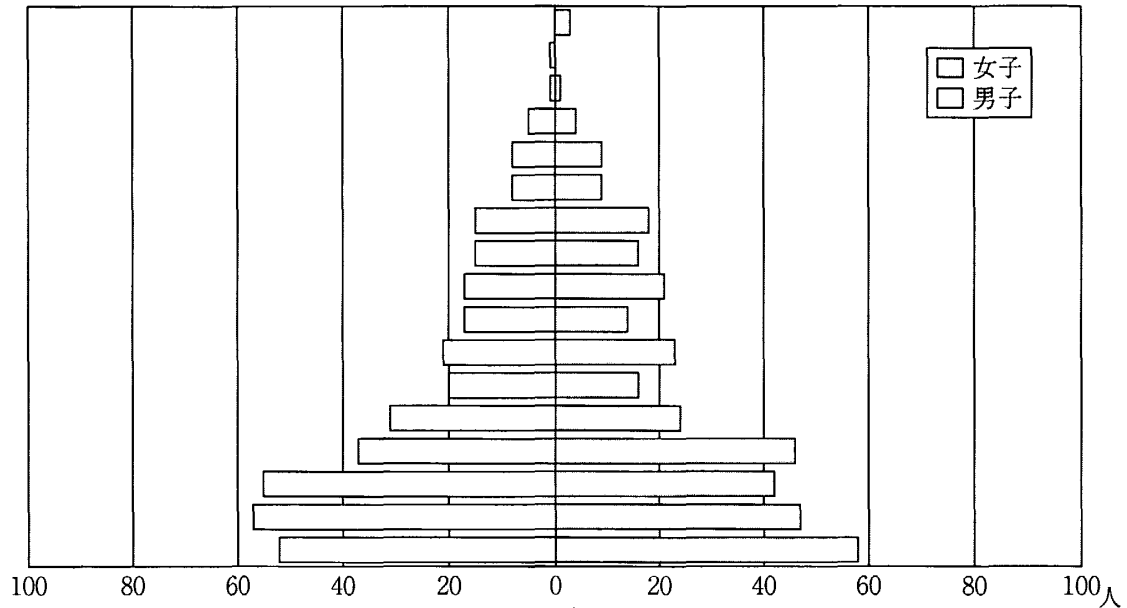
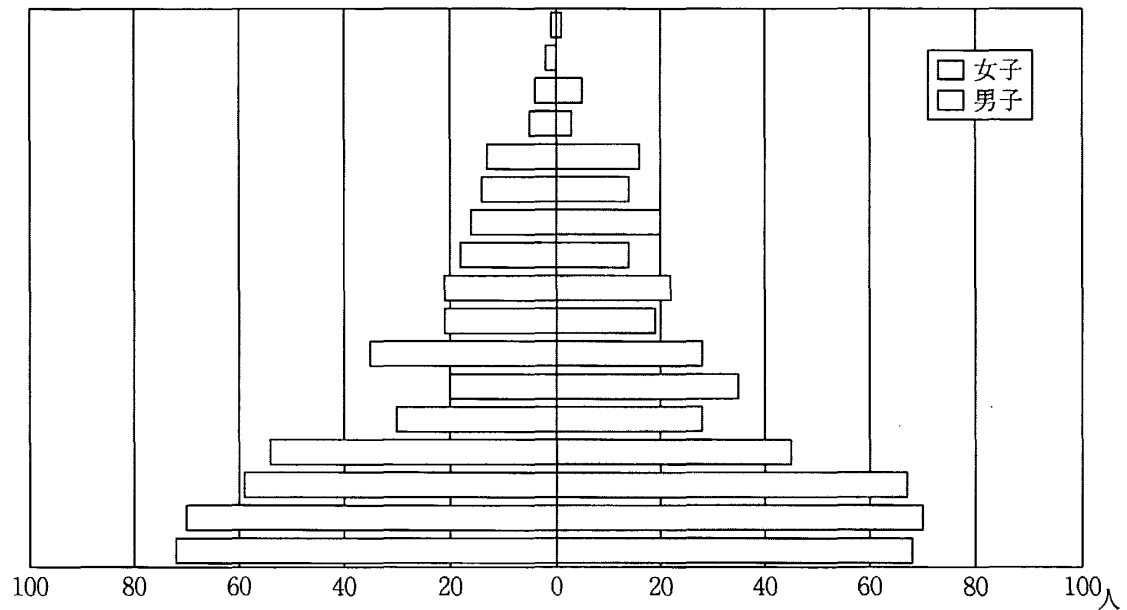


図5-2 人口ピラミッド1981年



ている。4) 再生産年齢女子人口の減少により、2000年のピラミッドの底辺では人口減少がみられる。5) 村外からの転入により一部の年齢層では増加がみられる。6) 出生事象が少ないことと移動が選択的であることから、年齢別の男女比に大きな差がみられる。

次に、年齢10歳区分人口の推移を図6-1(女子)および図6-2(男子)に示す。1) 全期間を通じて20歳未満人口が男女とも半数を超えており⁷⁾、ガロック村の人口は非常に若い年齢構成をもつ。人口の平均年齢は増加しているが、20歳代の前半から後半へと推移したにすぎ

7) 20歳未満人口割合の30年間の平均と標準偏差は、女子が平均 = .5342、標準偏差 = .0164、男子が平均 = .5563、標準偏差 = .0121となっている。また、30年間の平均で女子人口の42.3%と男子人口の44.8%が15歳未満人口である。原データは表2に示されている。

図5-3 人口ピラミッド1991年

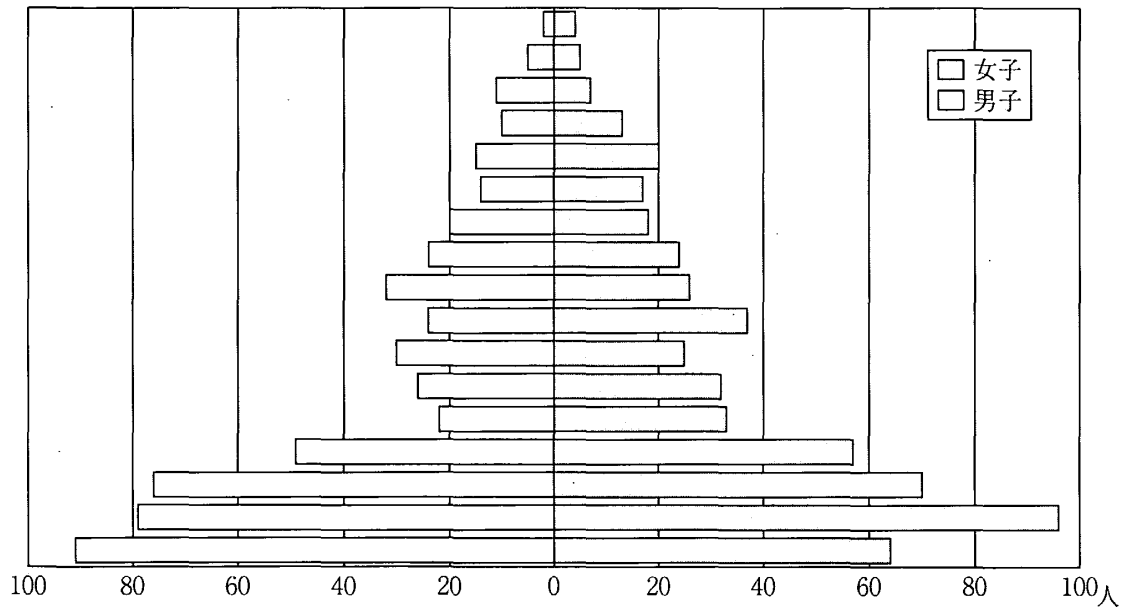
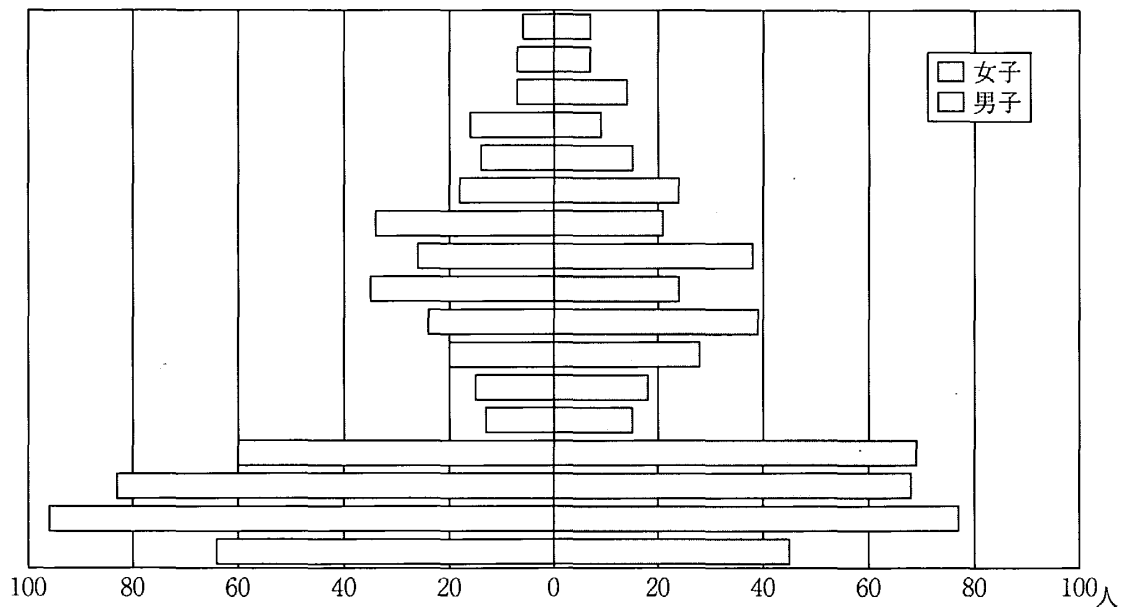


図5-4 人口ピラミッド2000年



ない⁸⁾。2) 20-29歳人口割合の低下が顕著にみられ、上述の人口ピラミッドの「括れ」現象と呼応する。3) その一方で、50歳以上人口の割合の増加がみられる。4) 30-49歳人口の割合はほぼ安定している⁹⁾。

ガロック村では人口の高齢化も進行している。図7に65歳以上人口割合の推移が示されている。1970年代後半に人口の高齢化の傾向がややみられるが、1983年以後に男女ともに顕著

8) 人口の平均年齢は、女子が1971年の23.99歳から2000年の28.50歳へと増加し、男子が同期間に22.01歳から26.05歳へと増加している。

9) 30-49歳人口割合の30年間の平均と標準偏差は、女子が平均 = .2047、標準偏差 = .0162、男子が平均 = .2063、標準偏差 = .0136となっている。

表2 年齢10歳区分別人口および65歳以上人口割合(1971-2000年)

年次	0-9歳		10-19歳		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50歳以上(人)		65歳以上人口割合(%)	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
1971	106	109	88	92	40	51	37	38	37	32	44	38	2.27	1.94
72	107	110	91	91	38	58	39	39	38	33	45	38	2.23	1.90
73	106	121	83	93	49	58	42	43	40	33	43	39	1.93	1.81
74	107	116	84	104	54	53	44	40	32	32	49	46	2.16	2.05
75	115	127	87	106	57	50	44	38	34	32	46	48	1.83	1.75
76	123	121	79	108	59	47	40	41	37	32	46	46	2.60	2.53
77	127	117	89	111	60	43	42	47	38	37	45	48	2.00	2.48
78	137	121	86	108	68	47	45	56	39	41	45	48	1.67	2.38
79	142	141	99	106	71	49	46	59	31	43	56	52	2.25	3.11
80	147	148	101	104	67	45	46	62	33	42	53	50	2.01	3.10
81	138	142	112	113	63	50	47	56	36	39	59	55	1.98	2.64
82	141	144	109	112	61	46	47	56	37	40	57	57	1.99	2.86
83	143	134	112	120	62	50	51	60	37	38	57	60	2.16	2.60
84	151	144	116	109	57	64	54	62	39	37	60	63	3.56	3.13
85	159	145	120	118	55	64	58	64	42	35	62	64	3.63	2.86
86	155	143	131	114	53	58	61	59	40	44	72	64	4.10	4.36
87	158	142	128	120	63	53	59	50	44	50	77	70	4.35	4.95
88	155	156	138	113	61	48	62	53	46	56	76	67	3.90	4.67
89	154	155	132	127	76	48	58	50	50	57	76	72	4.95	5.11
90	157	151	132	133	65	45	60	53	50	56	79	73	5.34	5.09
91	160	170	127	125	65	48	62	54	50	56	84	77	5.29	5.28
92	161	174	129	117	64	37	60	52	51	57	87	80	5.62	5.42
93	146	172	146	119	54	35	61	52	56	60	88	78	5.63	4.65
94	141	172	148	122	53	37	60	55	56	60	90	76	6.57	4.79
95	139	165	150	138	50	41	56	57	62	58	93	79	6.73	4.83
96	121	151	152	145	47	30	57	55	62	56	94	84	7.32	5.37
97	119	155	156	146	44	31	59	53	58	55	95	94	7.16	5.81
98	124	159	146	150	39	31	56	47	62	57	95	101	7.09	5.50
99	121	157	141	142	35	38	62	48	60	53	96	102	6.99	5.74
2000	122	160	137	143	33	28	66	44	62	61	97	102	7.16	6.69

な人口の高齢化が進んでいる。若年人口割合が高いために2000年の65歳以上人口割合は女子7.16%、男子6.69%にすぎないが、高齢従属人口比は女子で12.76、男子で13.96に達している。

2. 出生、死亡および移動の特徴

2-1. 出生

ガロック村内で発生した出生数¹⁰⁾は、1971-80年264人、1981-90年299人、1991-2000年248人で、粗出生率の延べ平均¹¹⁾はそれぞれ33.16%、30.38%、23.22%へと減少している。

10) ガロック村人口の出生力に対応する出生事例をカウントするため、面接調査は村内常住者を対象としている。たとえば、病院等村外で出生後ガロック村を常住地とする場合が含まれる。また、短期的に母親が出産のために転入し出産後に転出した場合は含まれない。

11) 10年間の出生数を10年間の延べ人口(各年末時点で在住する人口の総和で代替)で割った値。

図6-1 10歳区分女子人口割合の推移

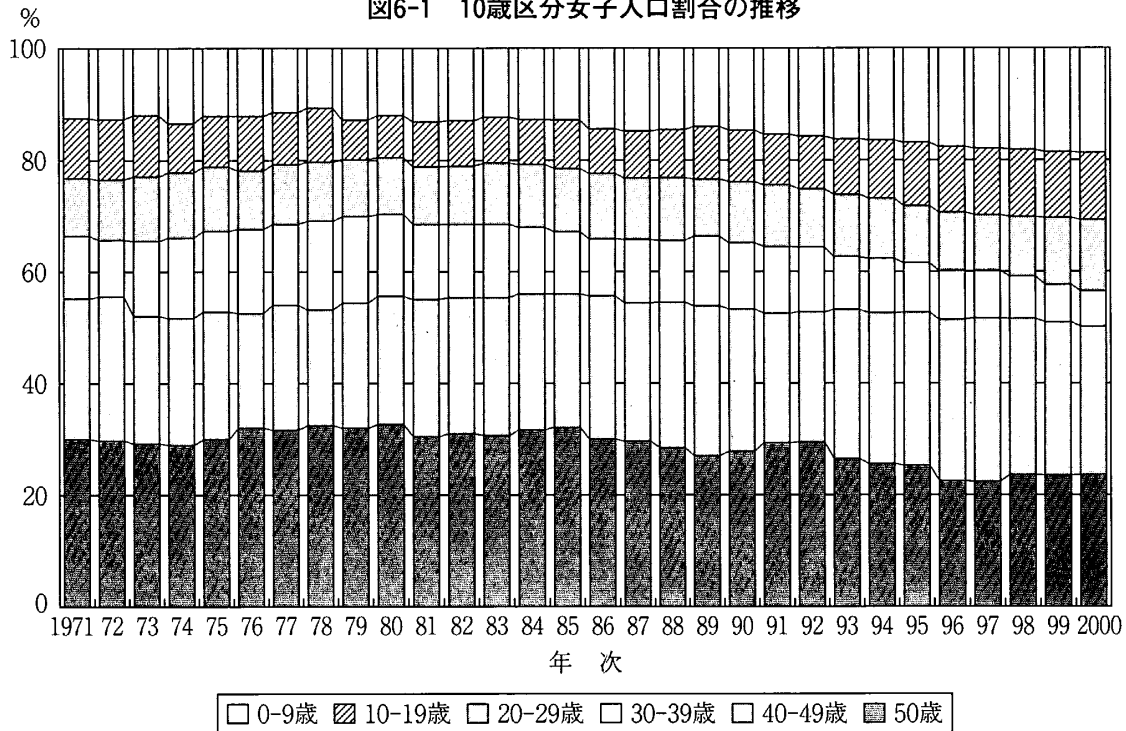
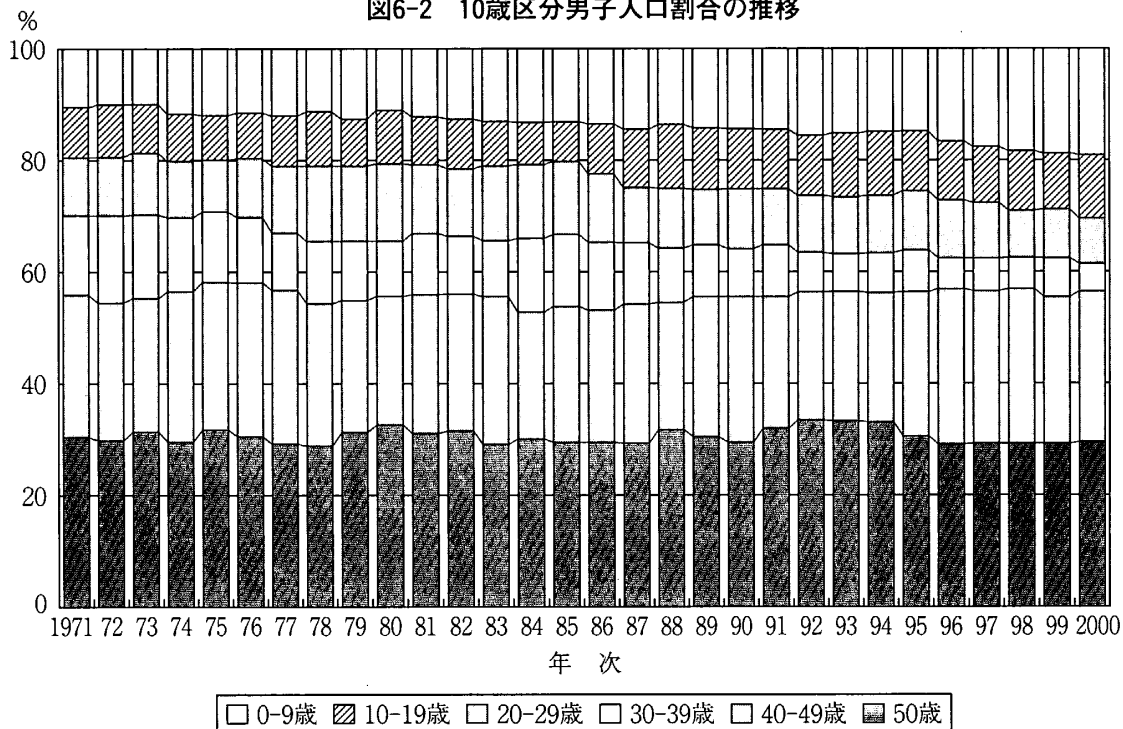


図6-2 10歳区分男子人口割合の推移



人口ピラミッドにみられるように複雑な年齢構造とその変化がみられるため、年齢別出生率を推定する必要がある。

女子の年齢5歳区分別出生率の近似値を求めるため、出生について母親の年末時満年齢を年齢5歳区分別に集計し、1971-80年¹²⁾、1981-90年、1991-2000年の3期間について当該の

12) ガロックの出生力の方がケダー州パダン・ランラン村のそれよりも高いが、1971-80年の出生パターン

図7 65歳以上人口割合の推移

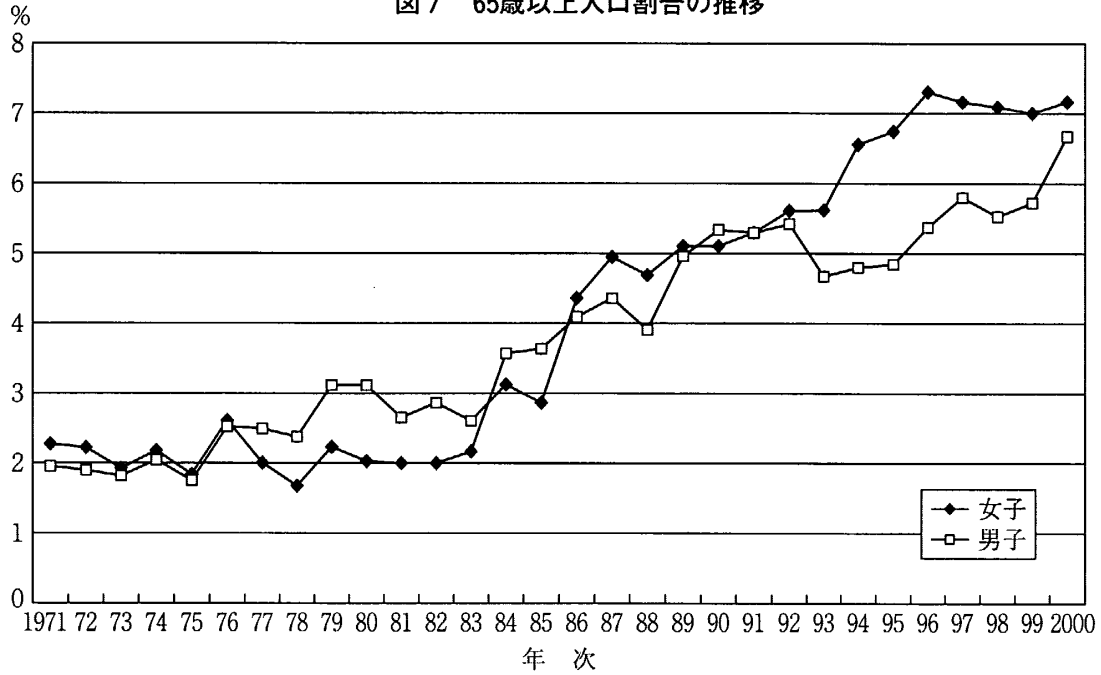
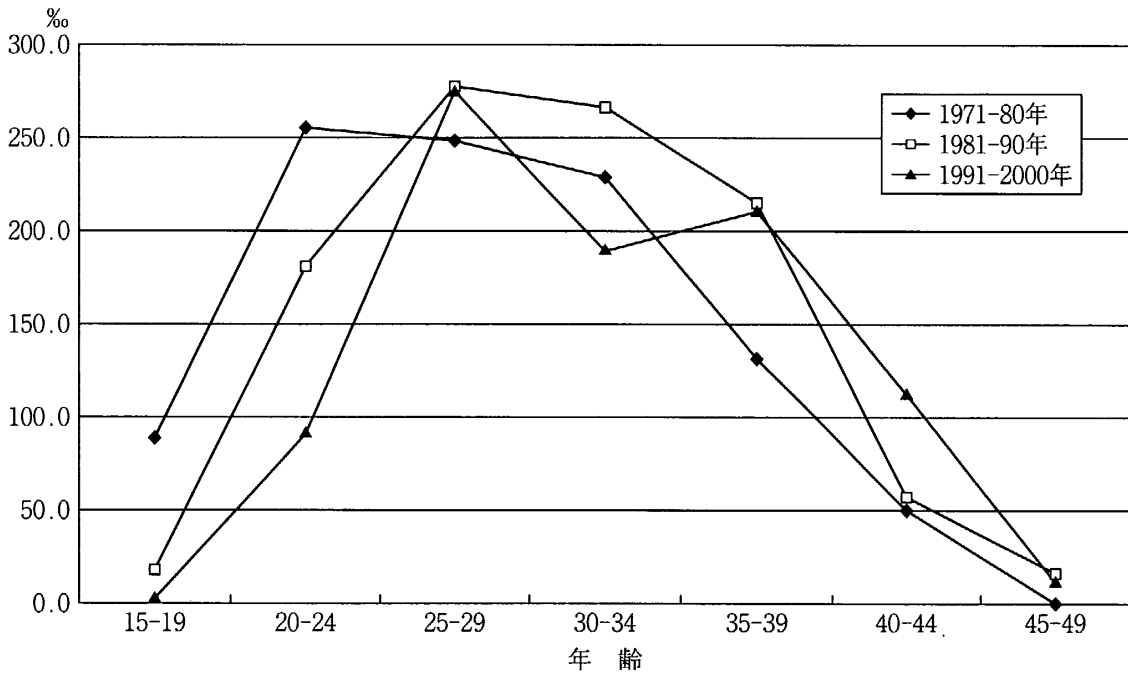


図8 女子年齢5歳区分別出生率



延べ女子人口で除した値を計算した。その結果は図8に示されている。年齢別出生率が高いことと出生パターンが高齢化していることがその主な特徴である。1) 15-24歳の出生率が低下している。15-19歳の出生率は、1971-80年の86.8‰から1981-90年の16.2‰、1991-2000年の3.1‰へと低下し、女子20歳未満の出生が例外的にしかみられなくなった。20-24歳の出

↘ンは1965-74年のパダン・ラランのそれと類似している。Keiichiro Matsushita, 'Changes in Population and Household Composition, A Case Study of Padang Lalang, Malaysia from 1964 to 1993,' Kansai University Review of Economics No.4, 2002参照。

生率は、同期間に255.7%から179.9%、93.1%へと低下した。2) 25-29歳の出生率は1971-80年(248.1%)に較べて1981-2000年(277.8%および274.3%)の方がやや高いが、大きな変化はみられない。3) 30-34歳の出生率は増加(229.1%から265.8%)した後に低下(190.1%)している。新しい出生コーホートの出生力が今後低下する兆候を示すものと考えられる。4) 35-44歳の出生率は増加している。35-39歳の出生率は1971-80年から1981-90年にかけて131.3%から214.8%へと増加している。40-44歳の出生率は1981-90年から1991-2000年にかけて57.5%から112.9%へと増加している。5) 1971-80年において15-24歳であったコーホートは高い出生力を示している。これら2つの年齢グループを10年ごとに結ぶと、それぞれが最も高い出生率を示しており、前後のコーホートに比べ高い出生力をもつ可能性を示している。

期間合計出生率は1971-80年の5.00から1981-90年にはやや増加して5.14となり、その後減少して1991-2000年には4.47となっている。1981-90年には30歳以上の出生率の増加が25歳未満の出生率の低下が期間合計出生率に与える影響を上回ったが、その後、20-24歳および30-34歳の出生率が低下したために期間合計出生率は低下した。この高い出生力は広い裾野をもつ人口ピラミッドにも現れている。期間合計出生率の低下の結果、2000年の人口ピラミッドにおいて0-4歳人口が減少している。

2-2. 死亡

ガロック村内で発生した死亡数は、1971-80年54人、1981-90年60人、1991-2000年61人であるが、粗死亡率の延べ平均はそれぞれ6.78%、6.10%、5.71%へと減少している¹³⁾。人口の年齢構成が若いため、粗死亡率は全体的に低い。死亡数が少ないため、全期間について集計した年齢5歳区分別死亡数を延べ人口で割った値を年齢5歳区分別死亡率の近似値として計算した結果が図9に示されている。1) 0-4歳の死亡率が低く、乳幼児死亡およびその出生に関するデータの調査漏れがあるものと考えられる¹⁴⁾。2) 40歳以後の死亡率は指数曲線に近い形状を示す¹⁵⁾。

2-3. 転入

ガロック村への人口の転入¹⁶⁾は、結婚および離婚にともなう転入、就学または就業のた

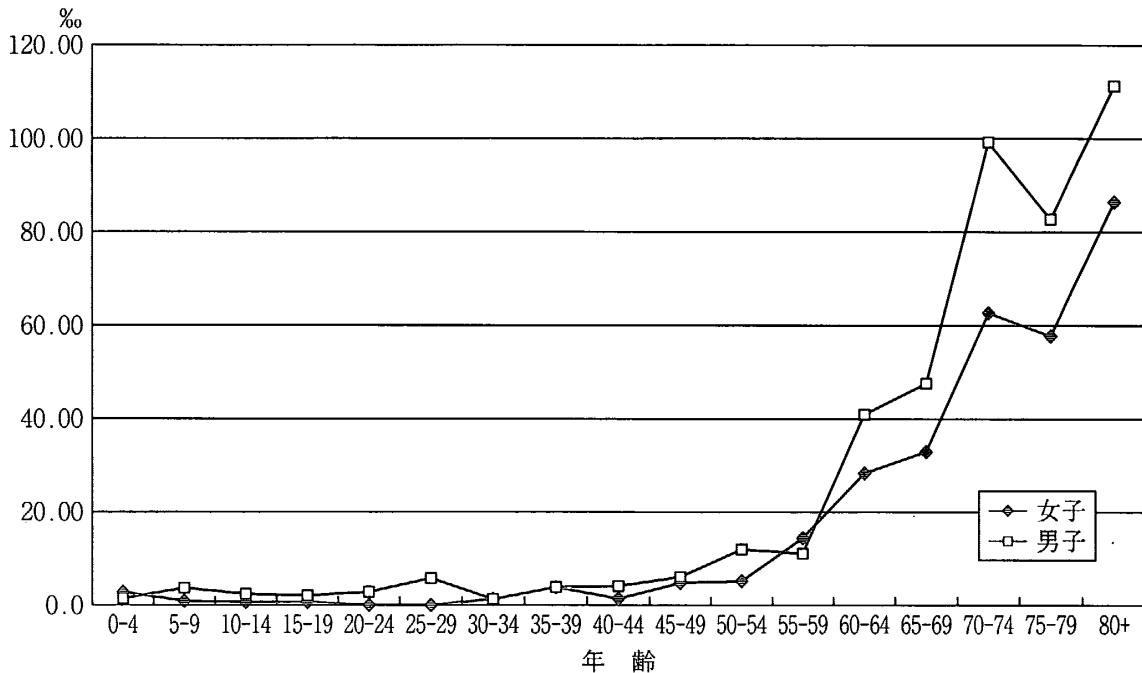
13) したがって各期の自然増加率は、26.38%、24.29%、17.51%となり、非常に高い水準からやや低下してきている。

14) 実際の死亡率および出生率は前述の値よりも高いものと思われる。

15) 単純な指数曲線の回帰推計(80歳以上を82.5歳で代表する場合)で決定係数は男女とも0.93を超える。

16) 転入は、ガロック村転入後1年以上在村する場合をカウントしている。転入後1年以内に死亡する場合もこれに含めている。同様に、転出は1年以上村外に転出した場合をカウントしている。

図9 年齢5歳区分別死亡率



めに転出した後に短期間内に発生する単身の転入¹⁷⁾、就業または通勤のために家族をともなう転入、退職にともなう核家族世帯の転入、老後の同居または別居にともなう転入などにより発生している。したがって、これらの転入理由に該当する年齢層の転入率が高い。調査で捕捉した転入者は、1971-80年に女子161人、男子166人、1981-91年に女子206人、男子200人、1991-2000年に女子211人、男子211人、合計で女子556人、男子577人である。転入者数を比較する限りでは男女の差はみられない。年齢別転入率の近似値を求めるため、転入事例を転入元の地域別¹⁸⁾ および年齢5歳区分別¹⁹⁾ に集計し、該当する年齢別延べ人口で割った値を計算した(付表1参照)。

女子人口の転入については次のような特徴がある。1) 村外からの女子人口の転入率のピークは25-29歳であり、その転入率は1981-90年に比べて1991-2000年において増加している。村内での移動を含めるとそのピークは20-24歳から25-29歳へと推移している。結婚年齢の増加および短期就業後に帰村する転入者の増加が影響している。2) 州外からの転入率が増加しており、地理上の移動範囲が拡張している²⁰⁾。3) 州内の転入率もやや増加している。4) 近隣村からの転入は減少し、1990年以前にみられた55歳以上人口の転入も1990-2000年

17) 転出後、短期間内に帰村すると、再転出する場合が多い。

18) 転入元および転出先の地域区分は、ガロック村内、近隣村、克蘭タン州内、州外の4区分とした。

19) 転入年齢は転入年の年末時満年齢をカウントしている。

20) 女子人口については、州外からの転入者が転入全体に占める割合が、1971-80年に16.15%、1981-90年に17.48%、1991-2000年に24.34%と増加している。男子人口については、同期間に14.46%から29.50%に増加した後26.54%へとやや減少している。

には皆無に近い。5) 村内移動率はやや増加した後に低下している。その移動のピークは20-24歳から25-29歳に推移している。

男子人口の転入については次のような特徴がある。1) 村外からの男子人口の転入率のピークは25-29歳で、村内からの転入を加えても変わらない。2) 1991-2000年における州外からの転入についてはそのピークが20-24歳に推移しており、州外へ同年代に転出した若年人口の帰村がめざましい。また同期間においては40-44歳および60-64歳で転入率がやや増加しており、Uターンの傾向を示している。3) 近隣村を除くクランタン州内からの転入については、そのピークは1971-80年には30-34歳、1981-1990年において25-29歳、1991-2000年において30-34歳へと推移しており、複雑なパターンを示している。4) 近隣村からの転入率はそれほど高くはないが低下の傾向を示している。また、65歳以上の高齢者の移動率が低下している。5) ガロック村内の移動については、やや増加した後に低下する傾向がみられる。また、65歳以上の高齢者の移動率が低下している。

2-4. 転出

ガロック村からの転出は、就学・就業にともなう単身の転出および再転出、結婚および離婚にともなう転出、就業あるいは通勤のため家族をともなう転出、老後の同居または別居にともなう転出などにより発生している。転入同様、これらの転出理由に該当する年齢層の転出率が高い。調査で捕捉した転出者は、1971年から1980年までの間に女子158人、男子164人、1981年から1991年に女子233人、男子257人、1991年から2000年に女子298人、男子287人、合計で女子689人、男子708人である。転出数が男女とも顕著に増加する傾向がみられるが男女の差は小さい。転入の場合と同様に、年齢別転出率の近似値を求めるため、転出事例を転出先の地域別および年齢5歳区分別²¹⁾に集計し、該当する年齢別延べ人口で割った値を計算した（付表2参照）。

女子人口の転出については次のような特徴がある。1) 村外への転出年齢のピークについては、1971-80年においては15-24歳と20-24歳がほぼ同じ転出率を示していたが、それ以後は20-24歳に明らかなピークがみられる。2) 転出率は1991-2000年において顕著な増加を示し、20-24歳の延べ平均は32.8%に達している。3) 州外への転出率は1991-2000年に15-29歳で顕著に増加しており、20-24歳の延べ平均は25.10%に達している。州外への転出は15-24歳の全転出数の70%以上を占める。4) 近隣村を除くクランタン州内への転出率については、15-19歳で減少し、20-29歳で増加している。州外への転出ほど顕著な傾向はみられ

21) 転出年齢は転出前年の年末時満年齢をカウントしている。したがって転出年齢と転入年齢との間には1歳の差がある。

ないが、20-24歳にピークがみられるようになっている。40歳以上の年齢についても1971-80年と1991-2000年には1%前後の転出率がみられる。5) 近隣村への転出率は低く、結婚、離婚にともなう親子の移動、転居、高齢者の移動がみられる。6) 村内における転出は転入と同じ事象であるから、同様の傾向を示す。転入率と転出率との間でみられる若干の差は、転出前の確定年齢と転入後の確定年齢の差による。

男子人口の転出については次のような特徴がある。1) 村外への転出年齢のピークは20-24歳で、転入と比べると5歳若い。転出率は1991-2000年には著しく増加し、20-24歳の延べ平均は35.9%に達している。2) 州外への転出率は1991-2000年に15-29歳で顕著に増加しており、20-24歳の延べ平均は32.1%に達している。3) 近隣村を除くクラントン州内への転出率については、ピークが20-24歳から25-29歳に推移している。4) 近隣村への転出率は女子人口と同様に低い。結婚、離婚にともなう親子の移動、転居、高齢者の移動がみられる。

2-5. 純移動の推移

転入と転出の差を地域別年齢別にみることにより、地域間の純移動の特徴がわかる。1) 近隣村との純移動率は男女ともほぼ0に近く、やや転入超過の状態からほぼ均衡する状態に推移している。2) 近隣村を除くクラントン州内の移動については、近隣村と比べると純移動率の高低がややみられる。15-29歳で転出超過、30-44歳で転入超過となる傾向がみられる。25-29歳において1971-80年の転入超過から1981-2000年には転出超過に推移している。3) 州外との移動については、15-29歳における転出超過が増幅される傾向が示される。1981-90年に25-34歳に一時的にみられた男子人口の転入超過は1991-2000年になると転出超過になっている。一方、男子の35-44歳および女子の35-39歳でやや転入超過になる傾向がみられる。

ガロック村人口の年齢構成の特徴である逆「T」字型人口ピラミッドあるいは2000年の人口ピラミッドにみられる20-24歳の「括れ」は、高い出生力と15-24歳の転出超過の結果である。1970年代および80年代から既に15-24歳の州外への移動とシンガポール、ジョホール、あるいはその他の都市および工業地域へ短期的に出稼ぎに行く移動がみられたが、1990年代に入り15-24歳の州外への長期的な移動が顕著にみられるようになった²²⁾。

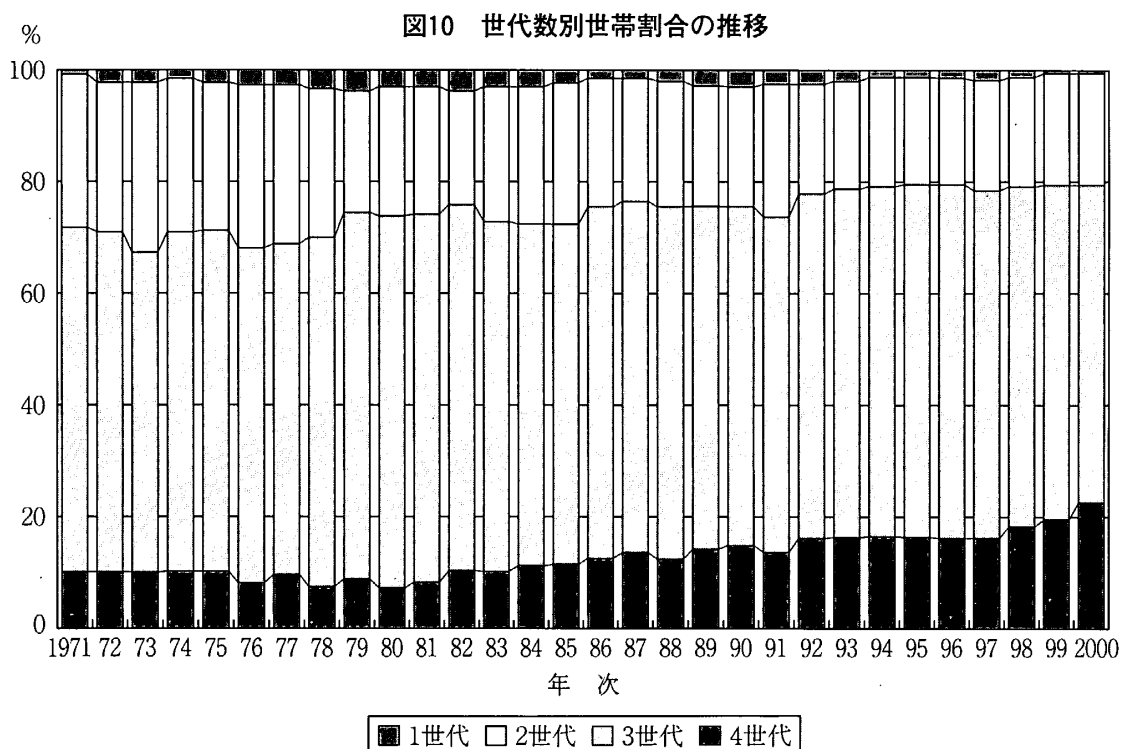
22) ここでは、1年以上滞在する移動を長期的な移動としている。Uターンを主とする40歳前後および60歳前後の州外からの転入超過がみられるが、転出人口の再転入に関して有効な分析をおこなうためには過去あるいは将来の20年についての追加データが必要となる。

3. 世帯構成の推移

3-1. 世帯類型別にみた世帯の推移

個人が時間と年齢の経過とともに状態を変化させることにより、同居する個人の集合である世帯もその状態を変化させる。世帯の分類区分に応じて、単位期間（本論では1年）内に類型間を推移する場合と同じ類型内にとどまる場合が発生する。さらに、挙家離村や挙家入村のように世帯が消滅あるいは発生する場合、分家により世帯が枝分かれする場合および同居により世帯が統合する場合、そして死亡により世帯が消滅する場合が生じる²³⁾。

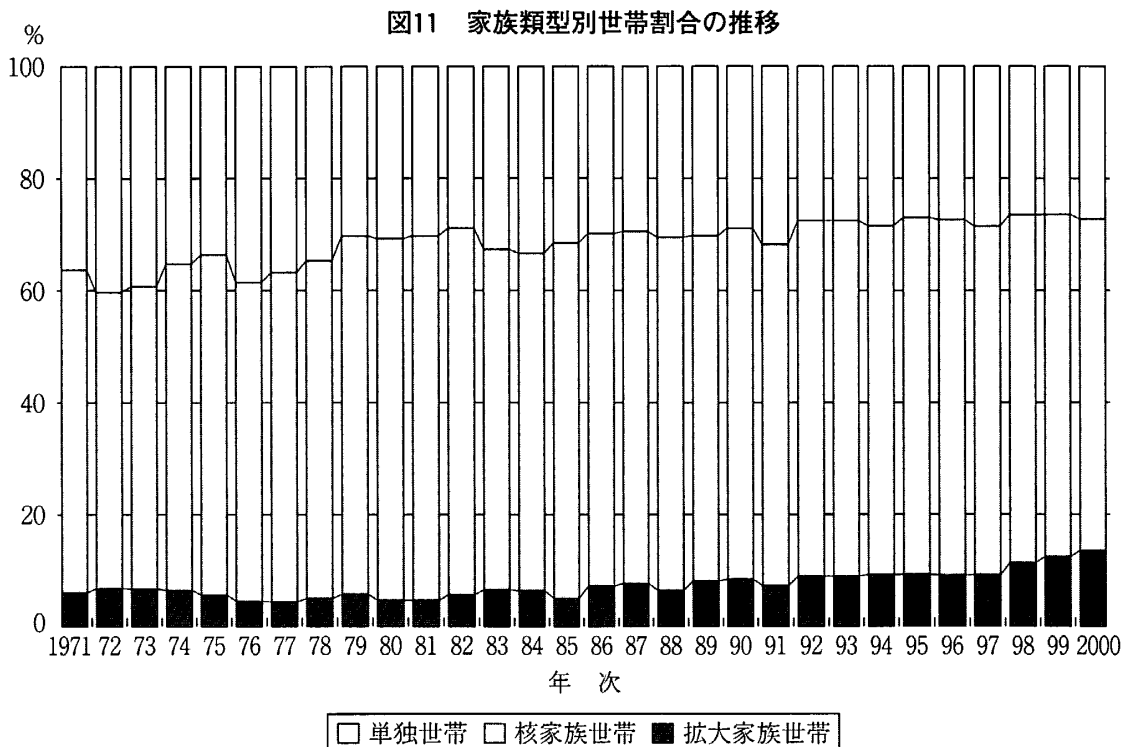
世代数別の世帯割合の推移が図10に示されている。30年間にわたり2世代世帯が約6割を維持している²⁴⁾。1970年代にほぼ1割であった1世代世帯が1980年代に入ると増加するようになり、2000年には2割を超えるようになっている。それとは反対に3・4世代世帯は約3割から約2割へと減少している。3・4世代世帯の世帯数は期間内にやや増減がみられるもののほぼ45世帯を維持している²⁵⁾。したがって、図10に示された変化は1世代世帯数が3.27倍増加したことと2世代世帯数が約33%増加したことによる。



23) ガロック村においては、30年間に挙家離村58例、挙家入村95例、分家57例、世帯統合6例、死亡による世帯消滅5例を数える。転居や世帯統合の事例の中には世帯主あるいはその配偶者の死亡が原因となっている場合がある。

24) 2世代世帯割合の平均は.619、標準偏差は.0228である。原データは表3に示されている。

25) 3・4世代世帯数の平均は45.9、標準偏差は2.84である。



同様の傾向は図11に示された家族類型別の世帯割合の推移にもみられる。30年間にわたり核家族世帯が約6割を維持している²⁶⁾。単独世帯の割合は低いが、6%から13%に増加している。一方、拡大家族世帯の割合は、4割弱から3割弱へと減少している。拡大家族世帯は期間内にやや増減がみられるもののほぼ57世帯を維持している²⁷⁾。したがって、図11に示された変化は単独世帯が9世帯から29世帯に増加し、核家族世帯が86世帯から132世帯に増加したことによる。単独世帯が増加する経緯としては、子・孫世代が離村し配偶者が死亡することにより単独世帯が形成される場合と高齢者が分家することによりそれが形成される場合とがある。

3-2. 世帯構成の類型間推移

世帯構成は世帯員の人口事象の発生により変化する。しかし、類型区分によっては人口事象が発生しても世帯区分が変化しない場合がある。たとえば、夫婦と長男から構成される核家族世帯において長女が出生しても核家族世帯という分類区分は変化しない。ここでは、世代数による分類区分と家族構成による分類区分について、世帯に生じる分類区分の変化を1年単位の期間に区切って追跡する。各年次の分類区分を表側に示し、1年後の分類区分を表頭に示す。したがって、1年が経過すると、各世帯は表側の分類区分から表頭の分類区分へ

26) 核家族世帯割合の平均は .613、標準偏差は .0302である。

27) 拡大家族世帯数の平均は56.8、標準偏差は3.05である。

表3 世代数別世帯数および家族類型別世帯数（1971-2000年）

年次	世代数別世帯数				家族類型別世帯数		
	1世代	2世代	3世代	4世代	単独	核家族	拡大家族
1971	15	92	41	1	9	86	54
72	15	91	40	3	10	79	60
73	15	86	46	3	10	81	59
74	16	95	43	2	10	91	55
75	16	96	42	3	9	95	53
76	12	91	44	4	7	86	58
77	15	92	44	4	7	91	57
78	12	101	43	5	8	97	56
79	15	111	37	6	10	108	51
80	12	113	39	5	8	109	52
81	14	114	39	5	8	112	52
82	18	114	36	6	10	114	50
83	17	106	41	5	11	103	55
84	20	108	44	5	11	107	59
85	21	112	47	4	9	117	58
86	24	120	44	3	14	120	57
87	26	122	43	3	15	122	57
88	24	121	44	4	12	122	59
89	28	120	43	5	14	123	59
90	30	124	44	6	17	128	59
91	28	123	49	5	15	125	65
92	34	130	42	5	19	134	58
93	34	131	41	4	19	133	58
94	34	130	40	3	19	129	59
95	34	133	40	3	19	134	57
96	33	130	39	3	19	130	56
97	33	129	41	4	19	129	59
98	38	127	41	3	24	129	56
99	41	126	43	1	26	129	56
2000	49	122	44	1	29	128	59

と推移したことになる。1971-81年、1981-91年、1991-2000年の3期にわけて各セルについて各年の数値を合計し推移前の総数で除した値を世帯単位の推移率の近似値として示す²⁸⁾。付表3は世代数別にみた世帯類型間推移を示し、付表4は家族類型別にみた世帯類型間推移を示す。

1) 世帯類型間推移を世代数別にみたとき、ガロック村で最も安定しているのは2世代世帯である。2世代世帯→2世代世帯推移の各期の値がそれぞれ95、94、94となり、ケダ州のパダン・ラランの例²⁹⁾と類似した値を示す。2世代世帯→3世代世帯への推移および2

28) 推移前の世帯が基準となるので、転入や分家によって新たに形成された世帯はその年次に限って集計から除外されている。推移率を100倍した値が表示されている。

29) Matsushita, K., 'Changes in Population and Household Composition, A Case Study of Padang Lalang, Malaysia from 1964 to 1993,' *Kansai University Review of Economics*, 4, 2002, 53-54ページ参照。スリラン

世代世帯→1世代世帯への推移も安定している。2) 1世代世帯は安定化する傾向を示し、その値は増加している(各期の値は85、89、93)。子供世代が転出し、高齢者の生存率が増加する時期に該当する。2世代世代への推移および転居/空家への推移が減少している。3) 3世代世帯はやや不安定化する傾向を示している(各期の値は91、91、87)。3世代世帯が減世代化する傾向が示され、隔世代世帯における高齢世代の死亡あるいは転居により2世代以上減世代化する例がやや増えている。4) 世帯類型間推移がもっとも不安定なのは4世代世帯である(各期の値³⁰⁾は89、85、77)。一般に、高齢者の生存率が増加する一方で世代間隔が結婚・第1子出生年齢の増加とともに増加し、さらに世帯構成の変化が加わることにによりかなり複雑な変化を示す。ガロック村の例では不安定化する傾向がみられる。

1) 世帯類型間推移を家族類型別にみると、核家族世帯の推移が安定している。核家族世帯から拡大家族世帯への推移(延べ114世帯)も約3.5で安定している。高齢者夫婦の核家族が配偶者の死亡や転居により単独世帯に推移する場合(延べ25世帯)、および核家族世帯が村外に転居してしまう場合(延べ50世帯)が少しみられる。2) 拡大家族世帯の推移も比較的安定している。ガロック村の拡大家族世帯は多様な家族構成をもち、人口事象が発生した後も形式的には拡大家族世帯に分類されることが多い。拡大家族から核家族に推移する割合は核家族から拡大家族に推移する割合の約2.1倍になっている。3) 単独世帯は核家族世帯や拡大家族世帯と比較するとその推移はやや不安定である。前述したように単独世帯が増加する中で、単独世帯から転居/空家への推移が減少してより安定化する傾向がみられる。

3-3. 人口事象と世帯類型間推移

ここでは、ガロック村において人口事象(出生・死亡・転入・転出)が発生した際に世帯類型がどのように推移しているかを示す。明らかなことであるが、出生あるいは転入が発生すると世帯員が追加され、死亡あるいは転出が発生すると世帯員が減る。したがって、推移後の類型は発生する人口事象の形態によって限定される。また、発生する人口事象は個人が単位であるから、以下では個人を単位とする集計例を示す³¹⁾。

アンカのラッサパナ村の例や滋賀県金堂の例では95を少し上回るが、他の世代ほど大きな差はみられない。松下敬一郎「Rassapana村の人口・世帯構成の変化1988-96年」龍谷大学国際社会文化研究所紀要2号2000年および「人口動態と世帯構成の変化-五箇荘町金堂の事例的研究」地域総合研究1号1991年参照。

30) 各期の延べ世帯数はそれぞれ36、46、31で、標本数は小さい。

31) 転入あるいは転出については同時に移動した個人の集合を単位として集計することも可能である。また、同じ年次に異なる人口事象が重なる場合、現時点では前後関係が不明瞭なケースが含まれる。その場合、死亡、出生、転出、転入の順で発生したものと便宜的に仮定して集計している。

出生による世帯類型間推移には次のような特徴がある。1) 1世代世帯に出生が発生すると、例外を除くとすべて2世代世帯に推移している³²⁾。2) 2世代世帯に出生が発生すると、11.4%は3世代世帯に推移する。その推移割合は低下する傾向にある。3) 3世代世帯に出生が発生すると5.0%が4世代世帯に推移する。4) 単独世帯に出生が発生する場合には、夫が単身赴任中に子を出生した場合と、祖母の住む単独世帯で孫が出生してそのまま滞在する場合の例外的なケースがある。5) 出生総数811のうち62.9%は核家族世帯で発生しており、その97.6%は出生後も核家族世帯のままである。親子世帯に転出した子が一時帰郷して出生し孫が同居するようになる場合などがわずかに2.4%を占める。6) 定義上、拡大家族に出生が発生しても核家族や単独世帯に推移することはない。

死亡による世帯類型間推移を男女別にみると、男女間の生存確率の差が世帯構成に影響を与えることから、推移の結果に差がみられる。1) 1世代世帯における女子の死亡は8ケースで、7ケースでは空家に推移している。それとは対照的に、男子の死亡は20ケースで1ケースのみが空家に推移している。2) 2世代世帯に死亡が発生すると、女子の場合では22.7%、男子の場合では2.7%が1世代世帯へ推移している。3) 3世代世帯に死亡が発生すると、女子では81.8%が1世代世帯あるいは2世代世帯へと推移するが、男子では76.7%が3世代世帯のままである³³⁾。4) 単独世帯に発生した死亡は女子が7ケース、男子が1ケースで、死亡の発生後は定義上、空家になる。5) 核家族世帯には高齢夫婦世帯、片親と未婚の子からなる世帯が含まれるため、死亡が発生することによるその推移は多様な場合を総合した結果となる。女子の場合75.0% (15/20)、男子の場合63.3% (31/49) が核家族世帯のまま変化しない。6) 拡大家族世帯に死亡が発生すると、女子の場合には63.6% (28/44) が核家族あるいは単独世帯に推移するが、男子の場合にはその割合は18.5%で大きな差みられる。

転入による世帯類型間推移は付表5に示されているが、次のような特徴がある。1) ガロック村では30年間で女子が578人、男子が577人転入しているが、そのうち新たに世帯を形成したのは女子が343人、男子が317人で、154世帯が転入や分家により形成された³⁴⁾。世代数別あるいは家族類型別についても男女間に大きな差はみられない。転入者の約87%が核家族世帯を形成している。2) 1世代世帯に転入が発生すると女子の場合のほうが1世代

32) 1世代世帯における30年間の出生総数は21である。祖父母夫婦世帯に母親が短期的に滞在して出産し、その後母親は転居しその子が滞在したケースが1例ある。

33) 4世代世帯における死亡例は女子が8ケース、男子が44ケースである。

34) ここでは村内の分家が含まれている。ただし、新築にともなう全世帯員の村内転居は転入および転出に含まない。

世帯にとどまる割合が高い。一方、男子の転入については転入後に2世代世帯へ推移する割合が女子のそれよりも高い。3) 2世代世帯に転入が発生すると、女子の場合にはほぼ半数の48.1%が3・4世代世帯へ推移しているが、男子の場合はその割合がやや低く36.7%にとどまる。4) 3・4世代世帯については男女間でほぼ差はみられない。5) 核家族世帯に転入が生じると、その約4分の3が拡大世帯に推移している。6) 拡大家族世帯に転入が生じてても世帯類型に変化は生じない。

転出による世帯類型間推移は付表6に示されているが、次のような特徴がある。1) ガロック村では30年間に女子が689人、男子が708人転出しているが、そのうち女子159人と男子143人の転出は世帯類型が空家に推移する移動であった。転出により87世帯が消失している。2) 1世代世帯に生じた転出により空家になる割合は女子のほうが高い。3) 2世代世帯および3世代世帯に転出が生じる場合、男女間に差はみられない。4) 単独世帯に転出が生じると定義上、空家に推移する。5) 核家族世帯および拡大家族世帯に転出が生じた場合の男女差はほとんどみられない。また、拡大家族世帯に生じる転出の約4分の1は核家族への推移をとまなっている。

3-4. 年齢別にみた家族類型別人口

人口は加齢するにしたがってその状態を変化させるが、ここでは家族類型別世帯をその状態変数と考える。在村する人口は加齢すると異なる家族類型の世帯に属することになる。そこで、年齢別にみた家族類型別人口割合は、出生から死亡にいたるまでにどのような割合で異なる家族類型に属しているかを示す。

男子および女子の年齢別家族類型別延べ人口がそれぞれ表9-1および表9-2に示されている。1) 0-4歳人口の約68%が核家族世帯に属しており、女子人口についてやや増減がみられるが、その割合はほぼ安定している。2) 女子の単独世帯についてみると、それは45-55歳位から始まり、そのピークは30%前後に達し、ピークの年齢は1971-80年から1991-2000年までの間に65-70歳から75-80歳へと推移している。3) 1971-80年において60歳以上の男子高齢者は核家族あるいは拡大家族に属していたが、1981年以後になると単独世帯がみられるようになり、1991-2000年においては5%前後を占める。20-34歳および45-59歳についても若干の単独世帯がみられる。4) 核家族世帯についてみると、その年齢別割合に2つのピークがみられる。第1のピークは、女子の場合には5-10歳にみられ、男子の場合には5-10歳あるいは10-14歳にみられる。第2のピークは、女子の場合には10年ごとに5歳増加し、30-34歳から40-44歳に推移している。男子の場合についてもピークの年齢が増加し、40-44歳から45-49歳に推移している。5) 拡大家族世帯についてみると、そのピークが核家族世帯割合

表9-1 年齢別家族類型別延べ人口（女子）

年齢	1971-80年			1981-1990年			1991-2000年		
	単独	核家族	拡大家族	単独	核家族	拡大家族	単独	核家族	拡大家族
0-4	0	407	229	0	565	199	0	417	184
5-9	0	400	181	0	578	169	0	620	133
10-14	0	289	195	0	479	194	0	638	158
15-19	0	172	231	2	375	180	0	495	141
20-24	0	142	165	1	190	137	0	161	86
25-29	0	180	83	0	171	117	0	125	112
30-34	0	176	54	0	215	88	0	193	91
35-39	0	142	56	0	210	51	3	217	95
40-44	0	99	81	0	182	47	0	245	67
45-49	4	70	105	6	135	54	0	194	80
50-54	5	48	115	5	70	97	17	136	76
55-59	22	35	75	2	51	123	22	90	72
60-64	24	12	54	12	28	103	26	37	95
65-69	13	1	31	27	11	61	20	17	93
70-74	3	0	13	18	6	31	25	9	70
75-79	0	0	0	5	1	22	16	7	36
80+	0	0	21	0	0	2	14	6	38

表9-2 年齢別家族類型別延べ人口（男子）

年齢	1971-80年			1981-1990年			1991-2000年		
	単独	核家族	拡大家族	単独	核家族	拡大家族	単独	核家族	拡大家族
0-4	0	422	207	0	501	245	0	503	243
5-9	0	435	167	0	483	227	0	638	251
10-14	0	381	189	1	479	181	0	586	206
15-19	0	276	177	2	354	162	0	381	174
20-24	1	111	130	4	168	129	2	121	61
25-29	1	120	131	5	105	115	7	79	86
30-34	5	184	81	4	147	115	6	108	121
35-39	0	141	49	1	200	89	1	160	121
40-44	0	145	50	1	200	56	0	192	80
45-49	4	97	61	6	146	40	0	233	61
50-54	5	65	77	5	124	57	11	174	58
55-59	1	49	78	9	77	63	11	104	64
60-64	0	34	50	0	58	66	7	87	67
65-69	0	19	38	5	40	51	8	56	57
70-74	0	14	13	5	15	28	4	31	41
75-79	0	1	9	0	8	17	5	24	33
80+	0	0	0	0	1	16	4	9	15

の谷に対応していることは明らかである。女子人口の若年層のピークについてみると、1971-80年の15-24歳人口の半数以上は拡大家族に属していた。1991-2000年では20-24歳人口の半数近くが拡大家族に属している。男子人口の若年層のピークについては、1971-80年の20-29歳人口の半数以上は拡大家族に属し、1991-2000年では25-34歳人口の半数以上が拡大

家族世帯に属している。男女とも拡大家族世帯に分類される0-4歳人口の割合が5-9歳人口のそれよりも高い。女子人口の中高年齢のピークについては、1971-80年に50-54歳、1981-90年に60-64歳、1991-2000年に65-69歳でみられ、ほぼ70%を占める。20年から25年の年齢差の間にその割合は約20%の谷から約70%のピークへと増加している。高齢になるにしたがって拡大家族世帯の割合が高くなる傾向もみられる³⁵⁾。男子人口の中高年齢についてはすべての期間についてみられる明瞭なピークはない。全体として拡大家族世帯の割合が低下しているが、1991-2000年において70歳以上の人口についてみてもその割合はまだ50%を超えている。

4. おわりに

本論の特徴は、1970-71年に実施されたガロック村の全戸調査データをベースにして、追跡・遡及調査により人口・世帯構成のパネル・データを作成し、それに基づいて基本的な人口動態統計と世帯の類型間推移を示していることにある。

ガロック村は、1970年代および1980年代においては、女子の高出生力と20歳前後の高転出により特徴的な人口年齢構成(逆「T」字型)をもっていた。州外への転出が増加することにより、人口ピラミッドは20歳代に「括れ」をもつ形状を示すようになった。このように高出生と高転出がガロックの人口に大きな影響を与える中で、その世帯構成は約60%が核家族世帯からなるものの、多様な形の拡大家族世帯がそれぞれの家族の事情に応じて形成されている。拡大家族世帯の家族類型間推移はやや不安定化する傾向を示している。しかし、拡大家族世帯に属す男子人口は年齢により20%から50%を占め、女子人口は20%から70%を占めている。核家族と双系性を基調としながらも、多様な家族構成をもつ世帯を形成して、都市との所得や教育・雇用機会の格差および高齢者との同居など各世帯のおかれた状況に柔軟に対応している。

35) 65歳以上女子の死亡32例の内、7例は単独世帯、2例は核家族世帯、23例は拡大家族世帯で発生している。70歳以上の23例についてはそれぞれ、3例、1例、19例である。65歳以上男子の死亡41例の内、16例は核家族世帯(うち13例は夫婦世帯)、25例は拡大家族世帯である。

付表1 転入率

女子転入率

(%)

年齢	1971-80年				1981-90年				1991-2000年				1971-2000年			
	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外
0-4	1.73	1.10	1.42	1.10	2.75	0.65	1.18	0.79	1.00	0.50	2.00	1.00	1.90	0.75	1.50	0.95
5-9	0.86	0.86	1.89	0.69	0.80	0.27	1.20	0.27	0.93	0.40	1.86	0.40	0.85	0.48	1.63	0.43
10-14	0.00	0.41	0.41	0.21	1.04	0.15	1.19	0.74	0.75	0.13	0.63	0.75	0.67	0.20	0.77	0.61
15-19	2.23	1.49	1.74	0.99	0.54	0.90	2.51	0.54	0.47	0.00	1.42	0.47	0.94	0.69	1.88	0.63
20-24	3.28	2.30	2.30	1.31	3.66	0.30	2.74	1.52	0.81	0.40	4.45	3.24	2.73	1.02	3.07	1.93
25-29	1.55	1.55	3.49	1.55	1.74	1.04	2.78	2.78	2.11	0.42	3.80	4.22	1.79	1.02	3.32	2.81
30-34	0.44	0.00	1.76	0.44	1.99	0.66	1.00	1.00	1.76	0.70	3.52	1.41	1.48	0.49	2.09	0.97
35-39	0.00	0.51	0.00	0.00	0.78	0.78	1.17	0.39	0.32	0.32	1.59	1.59	0.39	0.52	1.04	0.78
40-44	0.00	1.11	1.11	0.00	0.00	0.44	1.77	0.44	0.65	0.32	1.61	0.32	0.28	0.56	1.54	0.28
45-49	0.56	0.56	0.00	0.56	0.51	0.00	1.03	0.00	0.00	0.37	0.37	0.00	0.31	0.31	0.47	0.16
50-54	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.16	0.58	0.44	0.00	0.00	0.00	0.35	0.00	0.35	0.18
55-59	0.00	0.76	2.27	0.00	0.00	0.57	1.70	0.00	0.54	0.00	0.54	0.00	0.20	0.41	1.42	0.00
60-64	1.11	1.11	0.00	0.00	0.00	0.70	0.00	0.00	1.27	0.00	0.00	0.00	0.77	0.51	0.00	0.00
65-69	0.00	2.22	0.00	0.00	2.02	2.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.73	1.09	0.00	0.00
70+	0.00	0.00	0.00	0.00	3.53	0.00	2.35	1.18	1.36	0.45	0.90	0.00	1.75	0.29	1.17	0.29

男子転入率

(%)

年齢	1971-80年				1981-90年				1991-2000年				1971-2000年			
	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外
0-4	2.07	0.79	1.27	0.48	1.07	0.40	1.07	1.21	0.94	0.67	3.35	1.21	1.32	0.61	1.93	0.99
5-9	0.66	0.66	1.99	0.50	0.85	0.42	1.83	0.99	0.56	0.11	2.25	0.79	0.68	0.36	2.04	0.77
10-14	0.70	1.05	0.53	0.18	1.06	0.15	0.76	0.76	0.13	0.51	1.14	0.13	0.59	0.54	0.84	0.35
15-19	0.00	0.44	0.22	0.66	0.97	0.00	1.54	0.39	0.00	0.54	1.08	1.08	0.33	0.33	0.98	0.72
20-24	0.82	2.46	4.10	1.23	1.33	0.66	1.66	3.32	0.00	0.54	1.09	5.43	0.82	1.23	2.33	3.16
25-29	2.72	2.33	5.45	0.78	3.56	2.22	3.11	5.33	2.33	1.16	3.49	4.65	2.91	1.99	4.13	3.36
30-34	0.73	1.47	1.10	1.47	1.12	0.75	3.73	3.36	1.70	0.43	5.53	1.70	1.16	0.90	3.35	2.19
35-39	1.05	2.11	0.53	1.05	2.03	0.68	1.36	0.68	1.42	0.35	2.13	1.06	1.56	0.91	1.43	0.91
40-44	0.51	0.51	0.00	0.51	0.00	0.00	0.38	0.77	0.00	0.73	1.82	2.19	0.14	0.41	0.82	1.23
45-49	0.62	0.62	1.23	1.23	0.00	0.52	0.52	0.00	0.33	0.00	1.00	0.33	0.31	0.31	0.92	0.46
50-54	0.00	0.68	0.68	0.00	0.00	0.00	1.08	0.00	0.00	0.41	1.63	0.00	0.00	0.35	1.21	0.00
55-59	0.00	1.56	1.56	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	1.12	0.00	0.00	0.66	0.88	0.00
60-64	0.00	0.00	1.19	0.00	0.00	0.81	0.81	0.81	0.00	0.00	0.62	0.62	0.00	0.27	0.81	0.54
65-69	1.75	1.75	0.00	0.00	1.04	0.00	3.13	0.00	0.00	0.83	0.83	0.00	0.73	0.73	1.46	0.00
70+	5.41	5.41	0.00	0.00	2.22	0.00	2.22	0.00	0.60	0.60	1.20	0.00	1.71	1.02	1.37	0.00

付表2 転出率

女子転出率

(%)

年齢	1971-80年				1981-90年				1991-2000年				1971-2000年			
	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外
0-4	1.73	0.00	0.79	0.63	2.75	0.13	1.31	0.13	1.00	0.50	0.50	0.50	1.90	0.20	0.90	0.40
5-9	0.86	0.34	0.52	0.34	0.80	0.54	1.34	0.13	0.93	0.93	0.93	0.13	0.86	0.62	0.96	0.19
10-14	0.00	0.62	1.65	0.41	1.04	0.30	1.19	0.30	0.75	0.50	1.88	0.38	0.67	0.46	1.59	0.36
15-19	2.48	0.74	4.22	2.98	0.54	0.18	4.49	2.51	0.47	0.31	2.20	7.86	1.00	0.38	3.51	4.76
20-24	2.95	0.00	4.59	3.61	3.66	0.91	5.79	7.62	0.81	0.40	7.29	25.10	2.61	0.45	5.80	11.14
25-29	1.55	1.16	1.16	0.78	2.08	0.35	3.82	1.39	2.11	0.84	4.22	5.49	1.92	0.77	3.07	2.43
30-34	0.44	0.00	1.32	0.00	1.66	0.66	2.99	0.33	1.76	0.70	1.76	1.06	1.35	0.49	2.09	0.49
35-39	0.00	0.00	1.01	0.51	0.78	0.00	0.78	0.39	0.32	0.63	0.32	0.32	0.39	0.26	0.65	0.39
40-44	0.00	0.56	1.11	0.00	0.00	0.44	1.33	0.00	0.65	0.65	0.00	0.32	0.28	0.56	0.70	0.14
45-49	0.56	0.00	1.12	0.00	0.51	0.00	0.51	0.00	0.00	0.00	1.49	0.37	0.31	0.00	1.09	0.16
50-54	0.60	0.00	1.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.44	0.00	0.44	0.44	0.35	0.00	0.53	0.18
55-59	0.00	1.52	1.52	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.54	0.00	0.54	0.54	0.20	0.41	0.61	0.20
60-64	1.11	0.00	1.11	1.11	0.00	0.70	0.70	0.00	1.27	0.00	1.90	0.00	0.77	0.26	1.28	0.26
65-69	0.00	2.22	2.22	0.00	2.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77	0.77	0.00	0.73	0.73	0.73	0.00
70+	0.00	0.00	0.00	0.00	3.53	0.00	1.18	0.00	1.36	0.45	1.81	0.00	1.75	0.29	1.46	0.00

男子転出率

(%)

年齢	1971-80年				1981-90年				1991-2000年				1971-2000年			
	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外	村内	近隣村	州内	州外
0-4	2.23	0.00	0.79	0.00	1.07	0.40	2.28	0.13	0.80	0.67	2.28	0.67	1.32	0.38	1.84	0.28
5-9	0.66	0.33	0.50	0.00	0.99	0.00	1.13	0.42	0.56	0.56	0.79	0.11	0.73	0.32	0.82	0.18
10-14	0.70	0.00	1.05	0.00	1.06	0.76	2.87	0.30	0.13	0.25	1.14	0.13	0.59	0.35	1.68	0.15
15-19	0.00	0.44	2.65	3.31	0.97	0.00	2.90	5.60	0.00	0.18	1.80	12.43	0.33	0.20	2.42	7.40
20-24	0.82	0.82	5.74	9.43	1.66	0.66	4.98	11.30	0.00	0.54	3.26	32.07	0.96	0.69	4.80	15.91
25-29	2.72	1.17	2.72	2.33	3.56	0.00	4.89	2.67	2.33	1.16	5.81	7.56	2.91	0.76	4.28	3.82
30-34	1.47	0.37	0.73	1.10	1.12	0.00	4.10	0.75	1.70	1.28	1.28	2.13	1.42	0.52	2.06	1.29
35-39	0.53	0.00	2.11	0.00	2.37	0.68	2.71	1.02	1.42	1.42	0.71	0.35	1.56	0.78	1.83	0.52
40-44	0.51	1.03	1.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77	0.00	0.00	1.46	0.73	0.14	0.27	0.82	0.55
45-49	0.62	0.00	0.00	0.62	0.00	0.52	0.52	0.00	0.33	0.33	0.33	0.33	0.31	0.31	0.31	0.31
50-54	0.00	0.00	0.68	0.00	0.00	0.00	2.15	0.00	0.00	0.00	1.22	0.00	0.00	0.00	1.38	0.00
55-59	0.00	0.78	2.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.56	0.00	0.00	0.22	0.88	0.00
60-64	0.00	0.00	3.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.62	0.00	0.00	0.00	0.27	0.81	0.00
65-69	1.75	0.00	0.00	0.00	1.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.83	1.65	0.00	0.73	0.36	0.73	0.00
70+	5.41	0.00	0.00	0.00	2.22	0.00	0.00	0.00	0.60	1.20	0.60	0.00	1.71	0.68	0.34	0.00

付表3 世代数別にみた世帯類型間推移

1971-81年

	転居/空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世代世帯	8	85	5	2	1
2 世代世帯	2	1	95	3	0
3 世代世帯	0	2	5	91	2
4 世代世帯	0	3	3	6	89

1981-91年

	転居/空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世代世帯	5	89	5	1	0
2 世代世帯	2	1	94	3	0
3 世代世帯	0	3	5	91	1
4 世代世帯	0	4	4	7	85

1991-2000年

	転居/空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世代世帯	3	93	2	3	0
2 世代世帯	1	2	94	3	0
3 世代世帯	1	3	9	87	1
4 世代世帯	3	0	6	13	77

1971-2000年

	転居/空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世代世帯	4	90	3	2	0
2 世代世帯	1	1	94	3	0
3 世代世帯	1	2	6	90	1
4 世代世帯	1	3	4	8	84

付表4 家族類型別にみた世帯類型間推移

1971-81年

	転居/空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	9	86	2	2
核家族世帯	2	0	94	4
拡大家族世帯	1	1	6	93

1981-91年

	転居/空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	7	88	2	2
核家族世帯	2	0	94	4
拡大家族世帯	1	2	5	92

1991-2000年

	転居/空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	4	91	2	3
核家族世帯	1	1	94	3
拡大家族世帯	1	2	7	90

1971-2000年

	転居/空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	6	89	2	3
核家族世帯	2	1	94	3
拡大家族世帯	1	2	6	92

付表 5

転入による世帯の類型間推移（女子）

	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
空家	8	85	6	1
1 世代世帯	24	29	48	0
2 世代世帯	0	52	46	2
3 世代世帯	0	0	90	10
4 世代世帯	0	0	0	100

転入による世帯の類型間推移（女子）

	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
空家	3	87	10
単独世帯	0	33	67
核家族世帯	0	23	77
拡大家族世帯	0	0	100

転入による世帯の類型間推移（男子）

	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
空家	9	83	8	0
1 世代世帯	11	38	51	0
2 世代世帯	0	63	33	4
3 世代世帯	0	0	91	9
4 世代世帯	0	0	0	100

転入による世帯の類型間推移（男子）

	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
空家	2	86	11
単独世帯	0	46	54
核家族世帯	0	28	72
拡大家族世帯	0	0	100

付表 6

転出による世帯の類型間推移（女子）

	空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世帯世帯	86	14	0	0	0
2 世代世帯	32	8	60	0	0
3 世代世帯	6	16	21	56	0
4 世代世帯	9	6	18	39	27

転出による世帯の類型間推移（女子）

	空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	100	0	0	0
核家族世帯	34	2	63	1
拡大家族世帯	8	10	25	57

転出による世帯の類型間推移（男子）

	空家	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	4 世代世帯
1 世帯世帯	61	39	0	0	0
2 世代世帯	31	8	61	0	0
3 世代世帯	4	15	22	60	0
4 世代世帯	4	12	16	28	40

転出による世帯の類型間推移（男子）

	空家	単独世帯	核家族世帯	拡大家族世帯
単独世帯	100	0	0	0
核家族世帯	34	3	62	0
拡大家族世帯	5	10	26	60